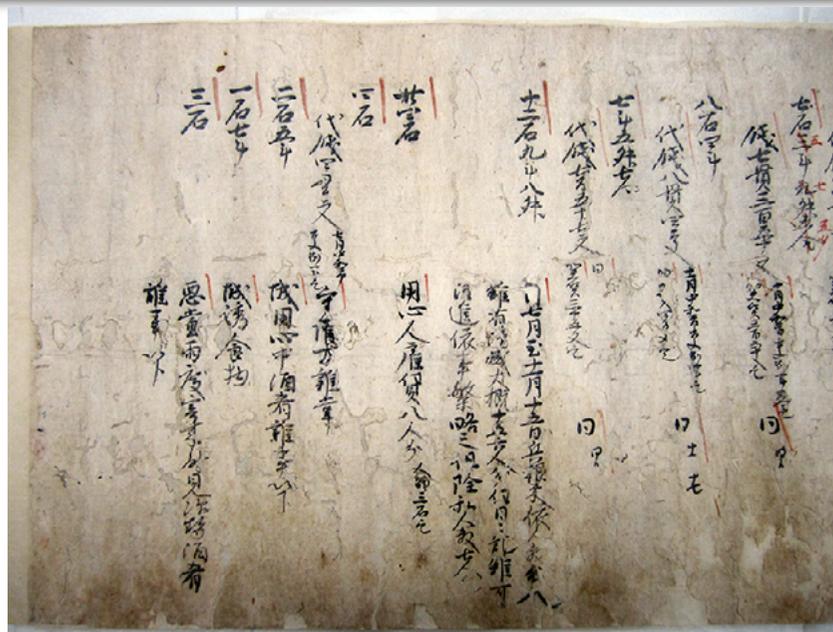


中世

第7章 武家社会の成長 2. 幕府の衰退と庶民の台頭 (1) 惣村の形成

解説

悪党から村を守れ  
—映画『七人の侍』を生んだ村—



康永元年(1342)「因幡国智土師郷上村年貢結解状」『称名寺文書』★

■悪党からどのように村を守るか

鎌倉時代後期、分割相続による所領の細分化や、蒙古襲来の恩賞不足などにより、御家人の中には窮乏する者が多かった。彼らの中には武力に訴えて荘園領主に対抗したり、秩序に従わない者たちもあらわれた。これらの武士は「悪党」と呼ばれ、鎌倉末期から南北朝時代にかけて全国に広がっていった。悪党たちは荘園の年貢を押領したり、夜討・強盗・狼藉などの悪事をはたらき、幕府の取締りの対象となっていた。このような悪党の行為に対して、荘園内の村の中には、自分たちの生活や財産を守るために、自衛につとめるところもあった。

横浜の称名寺の荘園であった因幡国千土師郷上村もそのような地域の1つである。この史料は同村が称名寺に提出した1342(康永元)年の収支報告書であるが、この中には悪党から村を守るために支出した費用と用途が記されている。その内容は以下のとおりである。

- ①用心人(用心棒)を8人雇うための費用
- ②城に籠もって用心する人たちへの酒・肴・もろもろの費用
- ③城を構築したり、整備する人たちへの食料費
- ④悪党が2度攻めてきた時に救援してくれた人たちへの酒・肴・もろもろの費用

ここからは、村が自衛のために城を築いていること、8人の用心棒を雇っていることがわかる。中世の動乱期において、村人が一致団結して、自分たちの力で村を守っていかうとした様子を見て取ることができる。

(担当：岡村吉彦)

◆映画『七人の侍』と千土師郷

黒沢明監督の有名な映画作品の1つに『七人の侍』(1954年、東宝)がある。この映画は、戦国時代の村に雇われた7人の侍が野武士から村を守り抜くストーリーであるが、これは黒沢監督がこの千土師郷上村の古文書からヒントを得たと言われている。

結解状とは  
中世の荘園において、荘園領主と現地の荘官との間で交わされた個々の荘園の年貢・公事などに関する年間の収支決算報告。算用状。

〔釈文〕  
(前略)  
十二石九斗八升  
自七月至十一月十五日兵糧米、依人数出入雖有増減、大概十五六人分、任日々記、雖可注進、依事繁略之、但、除私人數七人、  
①用心人雇費八人分  
人別三石定、  
四石  
代銭四貫文(略) 守護方雜掌、  
二石五斗 ②城用心中酒肴雜事以下  
一石七斗 ③城誘食物  
三石 ④悪党両度寄来之時、見  
次勢酒肴雜事以下

参考資料

・鳥取県『新鳥取県史資料編 古代中世1 古文書編 上』 271号 (2015年)